

2016 年 4 月 15 日

一般社団法人太陽光発電協会

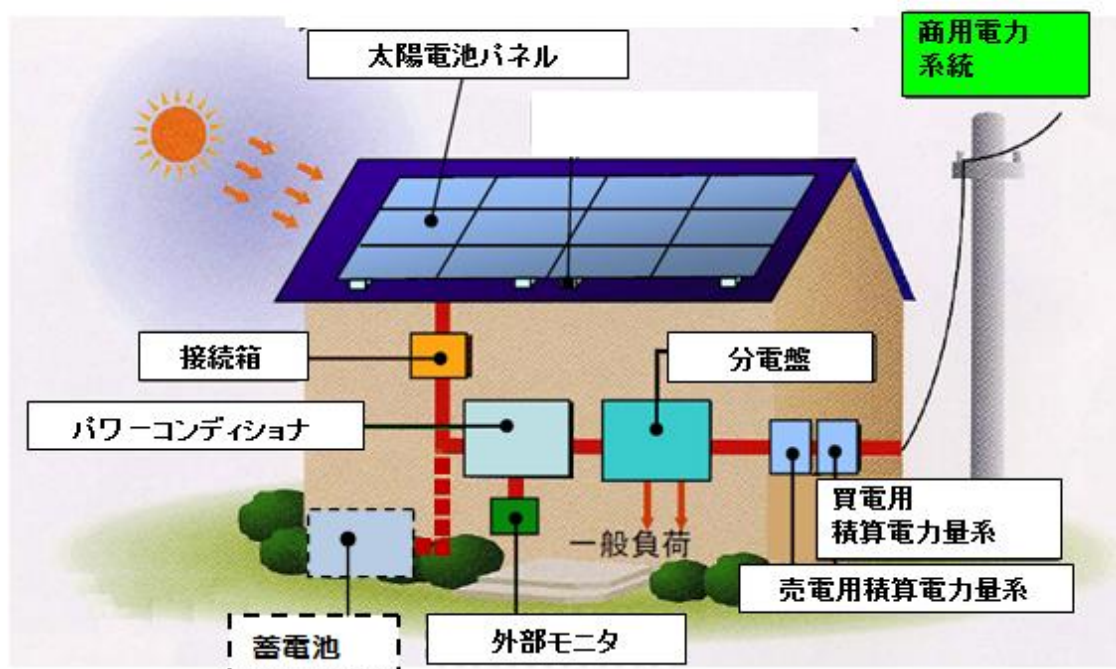
震災によって被害を受けた場合の太陽光発電システム取り扱い上の留意点

今回の熊本地方を中心とした震災の被害にあわれました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

本文書においては、「震災で倒壊の危険のある家屋に設置された太陽光発電システム」と「家屋と共に倒壊した太陽光発電システム」に分け、その取り扱い上の留意点につき記載しております。二次災害を未然に防ぐ為にも、記載内容に留意し適切に対処して下さい。

●破壊時の注意事項

- 【1】破壊されていても感電の恐れがありますので、触らない様にして下さい。
- 【2】被害への対処の実施にあたっては、販売・施工業者に連絡し適切な処置を依頼して下さい。



住宅用太陽光発電システム(例)

1. 「震災で倒壊の危険のある家屋に設置された太陽光発電システム」取り扱い上の留意点

太陽光発電システムは、商用電力系統が停電すれば自動的にシステムの運転を停止しますが、停電が復旧し日射があれば自動的に運転を再開します。倒壊の危険のある家屋は、機器や配線の損傷から漏電の危険性がありますので、必ず**分電盤の遮断機を切りパワーコンディショナの運転ボタンを停止にしてください**。その後、ご購入の販売・施工業者に連絡し、適切な処置を依頼して下さい。

2. 「家屋と共に倒壊した太陽光発電システム」取り扱い上の留意点

住宅等の屋根に設置されていた太陽電池パネルや、屋内外に設置されていたパワーコンディショナ、接続箱が震災で破壊され、家屋などのがれきと共に堆積している様な場合、太陽電池パネルに太陽の光が当たれば発電する可能性があり、素手などで触れると感電する恐れがあります。又、太陽電池パネルに配線でつながっている接続箱やパワーコンディショナからの漏電により、感電や火災の危険もあります。太陽電池パネルが震災で破壊された家屋に残っている場合や、破壊によって屋根から外れ、がれきとなって堆積している場合は、以下の事項に注意して作業を行って下さい。

●被害への対処における注意事項

- 【1】**素手で触らないで下さい。**
- 【2】救助及び復旧作業等で壊れた太陽電池パネル、接続箱、パワーコンディショナに触れる必要がある場合は、**ゴム手袋など絶縁性のある手袋をして下さい。**
- 【3】複数の太陽電池パネルが配線でつながっている場合や、太陽電池パネルと接続箱、パワーコンディショナなどが配線でつながっている場合は、**配線のコネクタを抜くか、配線を切断して下さい**。又、作業にあたっては、ブルーシートや段ボール等で覆いをするか、裏返しにする等、出来るだけ**太陽電池パネルに光が当たって発電しない様にして下さい**。
- 【4】配線の切断面から銅線がむき出しにならない様、**ビニールテープなどを巻いて絶縁して下さい**。
- 【5】太陽電池パネルを廃棄場に運ぶ際には、念のため**金づちなどでガラスを細かく破碎して下さい**。
尚、太陽電池パネルの構成部材は以下の通りです。
 - ・半強化ガラス：厚み約 3mm
 - ・セル：シリコンの板、10～15cm 角、厚み 0.2～0.4mm、銀電極、半田、銅箔 等
 - ・透明樹脂
 - ・白樹脂シート
 - ・金属枠：主にアルミニウム
 - ・配線材
 - ・樹脂箱 等
- 【6】夜間や日没後で日射等の光が当たらない時に作業を行う場合でも、日射のある時の作業と同様に上記の注意事項に従って対処して下さい。